



吉川小だより 10月号

京都府亀岡市立吉川小学校

令和7年9月30日発行

〒621-0014 亀岡市吉川町穴川平田17番地 TEL 0771-22-1210

E-Mail el-yoshikawa@edu.city.kameoka.kyoto.jp



運動会なんて大キライ

スポーツ観戦が趣味である私は、9月中旬から「世界陸上」に釘付けになっていました。今年は東京開催で放送時間帯もちょうど良かったこともあり、ほぼ毎日テレビの前で声援を送っていました。

一方、学校では、9月末からいよいよ運動会に向けた練習が始まりました。暑さのことを考慮して、昨年よりもおよそ1ヶ月遅い運動会です。子どもたちは、走ったり踊ったりして一生懸命練習に取り組んでいます。そんな姿を見ていると、ずっとずっと前に担任していたAさんのことを思い出しました。

Aさんは6年生の女の子でした。とてもまじめで、いつも落ち着いて行動していました。また、決して友達のことを悪く言わない、心の優しい子でした。

そんなAさんが、2学期が始まってしばらくしてからめずらしく学校を休み、それが何日も続いたことがありました。私はAさんのおうちを訪ね、何度も話をした結果、ようやくAさんが学校を休んだ理由にたどりつきました。

それは、「運動会がいやだから」というものでした。Aさんは運動が得意ではなく、特に走りが苦手でした。「学校の勉強の中で、たくさんの人の前で苦手なことを見せなければならないのは体育だけ。運動会はずっとずっと大キライだった」というのが彼女の言い分でした。

私は、その時返す言葉が見つかりませんでした。考えてみれば、その通りです。運動が好きで得意だった私にとって、運動会は最も好きな行事の一つでした。だから、Aさんの気持ちを想像できていなかったのです。

とはいえ、このままではいけないと思った私は、Aさんに「運動以外にもあなたの力が必要な場面があるよ。そこでがんばってみたら？」と声をかけました。例えば、学年全体で取り組む組立体操。誰かと競うのではなくみんなの力を合わせる種目です。他に、委員会活動で下級生のサポートをする仕事もありました。心の優しいAさんには、ぴったりの仕事です。

ご家族の励ましもあって、その後Aさんは再び登校するようになり、運動会の練習にも取り組むことができました。そして当日。徒競走では、ゴールまで全力で走りきりました。順位は5位でしたが、最後まであきらめずに走る姿は、たいへん輝いていました。また、1年生の玉入れの入場で、手をつないで優しく1年生をリードするAさんは、最上級生としての頼もしさにあふれていました。

私は、Aさんから、自分の価値観ではなく子どもの目線で物事を考えることの大切さを学びました。運動会が大キライな子もいて当然です。大事ななのは、そこからどう考え、どう行動するのか。運動会の練習で忙しい中ですが、これまで以上に、子どもたち一人一人をしっかりみつめていきたいと思いました。

校長 谷口 浩之